



中国がわかるシリーズ 22 煬帝の時代と唐の建国

ライフネット生命株式会社

代表取締役会長兼 CEO、出口 治明

604 年、高祖文帝が没し(楊広によって殺されたとの説もあります)、皇太子の楊広が即位しました。隋帝国 2 代、煬帝の登場です。煬帝は、洛陽を事実上の首都に定め、605 年、南北を結ぶ大運河の建設を命じました。淮水と長江の間は文帝の時代に開削されていたので、黄河と淮水を結ぶ通済渠、黄河と天津を結ぶ永済渠、長江から杭州に至る江南河を開削し、610 年には南北 2500km に及ぶ大運河網が開通しました。江南の豪奢に惹かれていた煬帝は、龍舟を仕立てて、江都(揚州)へ行幸しました。六朝時代を通じて、江南の生産力は急拡大していましたので、この大運河の開通は、中国に流通革命をもたらし、大唐世界帝国 300 年の繁栄の基盤となったのです。また、通済渠と、永済渠の結節点に位置する開封は、その地政学的な重要性が著しく高まりました。煬帝は、まさに、開封の恩人になったのです。

607 年に律令(大業律令)を公布して法制を整えた煬帝は、外征にも熱意を示しました。青海で中継貿易により巨利を得ていたチベット系の吐谷渾(支配層は鮮卑)を服属させて、西域の交易ルートを確認し、610 年には、洛陽で西域の族長を集めて大国際交易会(博覧会の先駆け)を催しました。また、南部では林邑(ベトナム)にまで版図を拡げましたが、3 次にわたる高句麗への攻撃(612~614)には失敗しました。大運河の開削や相次ぐ外征に疲弊した民衆が全国各地で反乱を起こし、煬帝は、為す術も無く 616 年から江都に引き籠りました。618 年、煬帝は臣下に殺されて隋はあっけなく滅びます。

617 年に、東突厥から兵を借りて挙兵していた李淵(高祖~626)が即位し、唐を起こしました。なお、李淵は煬帝のいとこに当たります。この時点の唐は、東突厥に臣属する群雄勢力の 1 つに過ぎませんでした。しかし、20 を超えた各地の有力群雄勢力は、623 年頃までに、天才的な軍略の冴えを見せた高祖の次男、李世民によって全て平定されてしまいました。この情勢を見て、新羅は、621 年、いち早く唐に朝貢し、高句麗、百済もそれに続いたのです。こうして、大唐世界帝国の幕が開きました。